

初めて哈
薩克人を
見る

山中に同
胞と邂逅
す

連の沙丘は蜿蜒徳城の北側に延び、南山の麓に達して、其處に長さ三里弱、幅一里弱の大無名湖を湛へ、湖岸には芨々、葦、刺木等繁茂し、最も牧場に適す。徳城を過ぐれば、南山麓に亦前者と同大の無名湖あり、更に察河舗に近づきて略同長弓形の湖に接す。察河舗は人家十三戸、總て回民とす、其六百餘畝の耕地は、風強きが故に、唯一年一回麥を種ゆるのみと。當日初めて察河舗の東側草地に幕住する、哈薩克人を見る。翌午前四時三十分出發、行くこと六里弱、此より山中に入り、芨々槽を経て谷地を辿り、迂餘曲折幾度か越山渡谷行程約十二里、新疆省の省城なる迪化城即ち烏魯木齊に着し、滯留二十餘日に到る。

斯の如く長日數を茲に消費せし所以のものは烏魯木齊の省城なるが故に諸般の調査に必要なると、目下寒氣凜烈、朔風甚劇の爲め、北路の交通殆んど杜絶の有様なるとを以てなり。

茲に特筆すべき事こそ有れ、并は予が第一回の天山超過を畢り、將に新疆の首府烏魯木齊城に入らんとするの日、山中にてゆくりなく、同胞林出賢次郎氏に邂逅せし一事なり。